

クルドの農業と農民 <その4>

イラクの果樹生産

クルド地域は、イラクの北部に位置して冷涼かつ乾期の乾燥気候を利用した果樹栽培も盛んである。果樹栽培は主に山岳地の傾斜地で行われている。

主要な果樹生産としてリンゴ栽培を多くの地域で聞いた。他にクルミ、アンズ、ザクロ、モモ、ブドウがある。聞き取りをした農家では、リンゴやモモは生食用、アンズ、ブドウは乾燥用、ザクロはジュース用として利用されていた。街の市場では各種のナッツ類が売られている。

果樹は専門ではない筆者の目ではあるが、手入れも比較的良く行われていたように見受けられる。剪定、整枝、摘果、除草、農薬散布なども一般的に行われている。果樹は比較的儲かる作物のようだ。小麦栽培から果樹栽培に切り替えた農家もいる。ただ、果樹栽培地はクルドでも北部や傾斜地での栽培が多い。傾斜地での栽培であるため大規模化は困難である。このような状況で、広い農地を持たない山岳部の農家は、果樹へ切り替え、収入の向上を目指そうとしていると考えられる。つまり、山間部では有望な現金収入の生業と言える。

しかし、クルドの果樹栽培は長年の戦乱により、大打撃を受けてきた。特に山岳部は戦乱の激しかった地域で、農民はイラクや周辺地域に難民として避難し、その間、果樹園は放置されたままになってしまった。訪問した Dohuk のトルコの国境に近いクルミ産地の村では、1975 年から 1990 年代上半旬まで戦乱で当地から避難し、その間農地は放棄され、現在でも村へ帰ることはできず、近隣村に住んで収穫のみを行っている聞いた。また、農業だけの収入では生活できず、年金や一時的な軍隊での労働により生活を維持している状況であった。

このような中で、政府の果樹生産拡大への普及現場を見学した。Dohuk 地域北部では、すでに 10 カ所のリンゴ栽培プロジェクトを開始し、250 人に研修を行っている。この近隣地ではスペインから導入したリンゴ苗を農家に委託栽培し適性試験を行っていた。また、首都近郊の農家では、リンゴとジュース用のザクロを栽培しており、その一角でリンゴの試験栽培を行っていた。さらに、Erbil にあるアインカワ農業研究所では、リンゴ・

ブドウの導入品種 180 種について試験栽培を継続中である。

果樹栽培は導入から収穫まで時間がかかる。また、年間を通した管理作業が必要だ。リンゴに関する栽培管理では、摘果、剪定作業の有無は農家によりまちまちであった。農薬散布はどこでも適用され、施肥は開花期のあとでコンポストと化学肥料を施用していた。灌漑は 3-11 月に行われるが、多くは井戸水を利用している (Erbil)。山岳部では急傾斜地にそって古い水路が張り巡らされているところもあったが、現在は管理されていない場所もおおい (Dohuk)。

果樹生産の課題の一つは、野菜同様にマーケティングとされている。一般的に果樹生産地は消費地から離れたクルド北部および西部の山岳地帯に広がっている。しかし、生産物の輸送は農家自身で行っている場合が多いようだ。仲買人による生産物流通の話は聞かなかった。農家は消費地まで自力で輸送、そして市場で販売しなければならない。小規模で輸送手段を持たない農家が多い中での、農家自身による生産物販売は負担も多いと考えられる。さらに海外産の高品質果樹の輸入も一つの脅威であろう。海外産と対抗できる高品質果樹の生産と、上記したような流通問題などの解決策を見いだしていかなければ、クルドの果樹産業も発展していかないであろう。ただ、果樹栽培に適した環境だけは十分にあることから、やり方次第では今後の発展も期待できると考えられる。



山岳地帯の果樹園



リンゴの新品種導入試験栽培